

団体名 <b>沖縄県立豊見城南高等学校</b>	連絡先 TEL : <b>098-850-1950</b> Eメール : <b>school@tominan-h.open.ed.jp</b>
----------------------------	--

## 1 実践事項（今年度の実践）

### 「1人1台端末を活用した朝学の実践及び授業実践」

## 2 実践内容

### (1) eラーニング教材「すらら」の活用

- ① 全学年にて朝のSHR前に10分間の「朝の学習の時間」を導入。1・2年生において、国・数・英・社の教科でeラーニング教材「すらら」を朝学にて活用。
- ② 教科指導では、国語科が1・2年生の漢文の導入の授業で「すらら」を活用して中学での学習内容の確認。

### (2) ICTを活用した授業実践

#### ①英語：

英単語学習アプリ「Quizlet」を用いての単語確認や教育用クイズアプリ「Kahoot!」を用いた内容理解チェック、掲示板アプリ「Padlet」を用いてのスピーキングと英作文の活動。

#### ②地理：

- ・ 学習した内容をもとに、生徒が各自で問題を作りフォーム作成アプリ「Forms」に入力。教師がその問題を教育用クイズアプリ「Kahoot!」に反映させて、テスト対策として生徒間で活用。
- ・ 地理で学習した内容から生徒が自らテーマを決めて、そのテーマに沿った内容の三つ折りパンフレットをAdobe Expressを活用して作成。

#### ③保健：

学習した内容から生徒が自ら設定したテーマについて調べ、PowerPointにまとめてプレゼン。

#### ④音楽：音楽Webアプリ「カトカトーン」を活用して、自分でイメージした音楽を創作。

## 3 説明資料



朝学 すらら活用



漢文の授業 すらら活用



英語 Padlet の活用



地理 B パンフレット制作



地理 B 生徒による問題作り



音楽 カトカトーンを活用した創作活動

## 4 成果

- (1)「すらら」の説明を繰り返し見ることによって、理解を深めたり自分のペースで学習を進めることができるため、より集中して学習課題に取り組む生徒の姿が見られた。
- (2)英語の授業では、教育用アプリを活用することにより、クイズ形式でクラスメイトと競いながら楽しく繰り返し学習するとともに、基礎的な学習内容の定着を生徒自身が実感することができた。
- (3)生徒のデジタルリテラシーは高いものがあり、問題作りやPower Point、パンフレット作成を通して、学びの足跡として生徒の個性あふれる成果物が創り出された。
- (4)1人1台端末を活用することにより、それぞれの生徒が学習内容を自分なりにまとめ、振り返ることで、より「主体的で深い学び」につなげることができた。

## 5 課題

- (1)1人1台端末を利用した授業を行う際は、もう1人の教師がTTとして、生徒個々の取組状況を見守りチェックする授業形態が望ましい。
- (2)「すらら」はドリルによっては難易度が高い内容もあり、現在使用している教科書に準拠していない科目もあるため、活用する際の工夫が必要。
- (3)学習端末が故障した生徒向けの対応が必要。本校では、手続きを踏んで学校の学習端末を借用させるなどの対応を行った。
- (4)学習端末を用いて意欲的に学習できる生徒とそうでない生徒に二極化する傾向がみられた。生徒の特性等によって学び方を選択できる形で「個別最適な学び」に繋げる実践研究が必要。